

info DRIVE ジャマガジン

Jamagazine

Japan Automobile

Manufacturers Association

日本自動車工業会 広報誌

JAMA vol.54
2020
[February]

月号
2

2020年自動車工業団体新春賀詞交歓会

CES2020

TOKYO AUTO SALON 2020

自動車博物館関連施設紹介シリーズ

SUBARU / スバルビジターセンター



JAMA

一般社団法人 日本自動車工業会



2020年2月主要自動車関連イベント

 は四輪車レース

国内主要イベント

日時	場所	名称
2月 14-16日	大阪府 インテックス大阪	第24回 大阪オートメッセ2020
22-23日	愛知県 ポートメッセなごや	名古屋オートトレンド2020
22-23日	神奈川県 バシフィコ横浜	第12回 ノスタルジック2デイズ
22-24日	宮城県 夢メッセみやぎ	第12回 東北モーターショー in 仙台 2020

海外主要イベント

日時	場所	名称
2月 5-9日	フランス パリ	サロン・レトロモビル
14-23日	カナダ トロント	カナダ国際モーターショー

海外モータースポーツ

日時	場所	名称
2月 15日	メキシコ エルマノス・ロドリゲス・サーキット	 Formula e 第4戦 メキシコシティe-PRIX
13-16日	スウェーデン トーシュビュー	 WRC 第2戦 ラリー・スウェーデン
22-23日	アメリカ サーキット・オブ・ジ・アメリカズ	 WEC 第5戦 ローン・スター・ル・マン
29日	モロッコ マラケシュ市街地コース	 Formula e 第5戦 マラケシュe-PRIX

JAMAGAZINE 2020年 2月号

発行日 2020年1月31日
発行人 一般社団法人 日本自動車工業会 広報室
発行所 一般社団法人 日本自動車工業会
〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目1番30号 日本自動車会館
広報室 kouho2@mta.jama.or.jp

©禁無断転載：一般社団法人 日本自動車工業会



- 02 2020年 自動車工業団体
新春賀詞交歓会
- 06 CES2020
- 08 TOKYO AUTO SALON 2020
- 14 大学キャンパス出張授業2019
- 16 自動車博物館関連施設紹介シリーズ
SUBARU／スバルビジターセンター

17 記者の窓

「車が怖かった」

北海道新聞社 米田 真梨子

- 1 2020年 自動車工業団体 新春賀詞交歓会
- 2 CES2020
- 3 TOKYO AUTO SALON 2020
- 4 大学キャンパス出張授業2019
- 5 SUBARU／スバルビジターセンター

●JAMAGAZINEは自工会WEBサイトからもご覧いただけます

[www.jama.or.jp/lib/
jamagazine/index.html](http://www.jama.or.jp/lib/jamagazine/index.html)



2020年 自動車工業団体 新春賀詞交歓会

日本自動車工業会 日本自動車部品工業会 日本自動車車体工業会 日本自動車機械器具工業会

今年の東京オリンピック・パラリンピックで、
業界一丸の飛躍

自動車産業が 『ワンチーム』で取り組む

日本自動車工業会、日本自動車部品工業会、日本自動車車体工業会、日本自動車機械器具工業会の自動車工業4団体は7日、「2020年自動車工業団体新春賀詞交歓会」を都内のホテルで開催しました。団体や企業トップのほか、関係省庁の来賓など約1800人が参加し、新年を祝いました。自工会の神子柴寿昭副会長（ホンダ会長）が4団体を代表して挨拶。昨年の東京モーターショーに130万人超の来場者が訪れたことや年末に閣議決定した補正予算案に「サポカー補助金」が盛り込まれたことに触れ、関係各位に感謝を述べました。また、今年の東京オリンピック・パラリンピックを交通事故ゼロ社会の実現に向けたマイルストーンと位置付け、自動車業界全体が「ワンチーム」となって取り組む決意を改めて示しました。

神子柴 寿昭氏

日本自動車工業会

副会長

《主催団体挨拶》

将来のモビリティ社会に向けて
業界が想いを一つに取り組んでいく



を賜り、誠にありがとうございます
ます。年頭に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

新年明けましておめでとうございます。
副会長の神子柴でございます。
本日はご多忙の折、牧原経済産業副大臣、青木国土交通副大臣をはじめ、多くの皆様にご臨席

本日は「令和」となつて初の、自動車工業4団体の賀詞交歓会でございます。新たな時代の幕開けを皆様方と共に祝いすると同時に、2020年という節目の年が、自動車産業にとつてより一層の飛躍の年となる様、業界一丸となつて取り組んで参りたいと、意を強くする次第でございます。



■TMSが130万人超え

さて、昨年この場で豊田会長から「日本の基幹産業として、我々のモノづくりの力を何としても守り続けたい。その為にも、もっと多くのお客様にクルマやバイクに乗って頂きたい」とお話がありました。まさにその想いを実現すべく取り組んだのが、今年の東京モーターショーでした。

若者のクルマ離れと言われて久しく、回を追う毎に来場者の減少に歯止めがかからない現状を何とか打破すべく、「OPEN FUTURE」をテーマに、業界の垣根を越え、オールジャンル、オールインダストリーで取り組んだ結果、お蔭様で130万人を超えるお客様にご来場頂くことが出来ました。改めて、皆様方のご尽力に心より御礼を申し上げます。

とりわけ、若年層や女性の来場が著しく増えたことは、大変心強いことであり、是非次回に繋げるべく、しっかりと準備を進めて参ります。

■災害時に電動車を活用

一方で昨年は、度重なる自然災害に見舞われる中、災害時に

自動車産業がどうお役に立てるのかを、深く考えさせられた一年でもありました。電動車が持つモビリティ本来の用途に加え、災害時には、非常用電源としての給電機能の活用が注目されましたが、同時に、その使い方を皆様に分り易くお伝えし、いざという時に迷わず使える為の、普及啓発の必要性を強く実感致しました。

■高齢運転者対応で「サポカー補助金」

経産省国交省におかれましては、全国の自治体やお客様への啓発活動を推進頂いておりますが、私共も一緒になって取り組んで参ります。また昨年は、高齢者によるアクセルとブレーキの踏み間違いによる交通事故が社会問題化した年でもありました。

年末に閣議決定された補正予算案に、高齢者の安全運転サポート車購入を補助する「サポカー補助金」が盛り込まれました。高齢者の事故対策に、政府として迅速に支援策を講じて頂いたことに、改めて御礼を申し上げます。今回の制度を、ドライバー一人ひとりの安全運転に対

する意識改革に繋げる機会と捉え、一時の販売補助として活用するに留まらず、さらなる安全運転支援技術の開発普及に取り組んで参りたいと思います。

■世界に日本の技術PR

さて、今年はいよいよ東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。世界中の人々が東京に集まる機会を、日本の技術力を世界にアピールする大きなチャンスと捉え、自動運転の実証実験を公開致します。

昨年、関係省庁のご尽力により自動運転車の実用化に向けた法改正が行われ、自動車メーカーがより一層開発を加速出来る環境が整いました。

■交通事故ゼロ社会の実現

「交通事故ゼロ社会」の実現は、自動車産業共通の願いであり目標です。昨今、CASEやMaaSといった言葉が頻りに語られる様になり、その中で自動運転が象徴的に取り上げられていますが、これはあくまでも、交通事故ゼロを目指す上での手段の一つです。「交通事故ゼロ社会」の実現に向けては、自動運転に

限らず、「どこが先に技術を出すか」と早さを競うのではなく、究極の安全・安心を目指し、業界全体として想いを一つにして、社会のお役に立てる様取り組んでいくことが重要だと考えます。

今年のオリパラを、その実現に向けたマイルストーンとして、飛躍の位置付けにしたいと思っております。クルマが社会の一部として、一人ひとりの暮らしをより豊かにして行く。より安全・安心で環境にも優しく、尚且つ楽しさも忘れない。そんなモビリティ社会の実現に向けて、この2020年を、自動車産業がワンチームで取り組みを加速する一年にしたいと考えております。

政府を初めご関係の皆様におかれましては、将来のモビリティ社会を見据えた税制の在り方や規制緩和、貿易障壁の撤廃等、課題の解決に向けてより一層のご支援を頂ければ幸いです。本日ご出席の皆様方には、引き続きご指導・ご鞭撻を賜ります様お願い申し上げますと共に、皆様のご健康・ご健勝を祈念致しまして、私からのご挨拶とさせていただきます。



牧原 秀樹氏

経済産業省 副大臣

《来賓挨拶》

自動車は日本の戦略産業 通商攻めるべきものは攻める

新年、あけましておめでとうございます。

令和、初めての新年を迎え、いよいよ7月には東京オリンピック、パラリンピックが開幕する年になりました。今大会の聖火リレーは福島からスタートいたします。生業の再建、ロボット、ドローンなど新たな産業の創生を通じ、未曾有の大災害からの復興は、これから本格化します。会場では福島生まれの、再エネ由来の水素が、燃料電池などで活用されます。復興への歩みを進める福島の姿を世界に発信してまいります。

日本から世界に対する発信は、東京オリンピック、パラリンピックだけではありません。自動車産業におきましては、昨年の東京モーターショーが大成功を収め、世界の自動車産業から、大変注目されました。「OPEN FUTURE」をテーマに、車好きの人もそうでない人も皆が楽しめるモーターショーを目指された結果、今、神子柴副会

長からお話がありましたように130万人の方が来場され、前回よりも約50万人増になったと聞いています。世界のモーターショーの来場者数が、軒並み減少傾向となる中、今回の東京モーターショーの盛況ぶりは、世界に対する素晴らしい発信となりました。皆様のご努力に心から敬意を称したいと思います。

自動車産業はまさに日本経済の屋台骨です。出荷額、設備投資額、研究開発費とともに、全製造業の2割を占め、関連雇用546万人を支えるなど、サプライチェーンが長く、また関連産業のすそ野も広く、皆様のご努力が、日本と地域の雇用を支えていると言っても過言ではございません。

一方で、自動車産業を取り巻く経営環境は、たいへん厳しさが増しているものと認識しております。米中の貿易摩擦やブレグジットなどのグローバルな事情環境の不透明感の高まりに加え

え、自動車産業界では電動化、自動走行など、CASEと言われる100年に一度の大変革の時代も到来しております。

こうした中、経済産業省としても、日本にとつての戦略産業であり、また社会の課題解決のリーダーでもある皆様と、しっかりと議論をして通商問題や税制、CASE対応などの戦略課題にも責任を持って取り組んでまいりたいと考えております。特に通商問題では昨年、日米貿易協定について、臨時国会において無事、承認を得ることができました。引き続き、攻めるべきものは攻めるとの方針のもと、政府一体で交渉してまいります。また日英EPAやRCEPの早期の交渉妥結等を目標に、自由貿易の旗手として自由で公正なルールに基づき、国際経済体制を主導してまいります。また、CASEのうち電動化対応では、電動車の普及促進による環境負荷低減に加え、昨年の台風等による停電の際、避難所での携帯充電などにおいて、その機動性や静音性から、災害時における電動車の有用性が改めて認識されたところがございます。

す。本年は皆様と一緒に、より一層の活用拡大による、社会課題の解決にも取り組んで参りたいと考えております。

先ほど申し上げたように自動車産業の皆様、大変すそ野も広く、大企業の皆様から、本当に小さな企業の皆様に至るまで、多くいらつしゃいます。現在、働き方改革を進めていただいているところですが、是非、最後の1人に至るまで、皆さんが働きがいのある環境を整えることについても、最後にお願いをさせていただきます。

今後、経済産業行政は、多くのチャレンジャーを乗り越えていかなければなりません。「新たな芽吹きと繁栄の始まり」という意味を持つ、十干十二支の「庚子」に当たる本年は、そのチャレンジャーに乗り出すに相応しい年となります。全身全霊、経済の好循環を維持・発展させてまいります。

自動車工業団体の皆様にとつて、益々繁栄の年となること、心から祈念して、梶山大臣の名代として、牧原からの挨拶とさせていただきます。本年もどうぞ、よろしく申し上げます。



青木 一彦氏

国土交通省 副大臣

《来賓挨拶》

世界初自動ブレーキの義務付けも 安全、環境に対応した自動車の普及促進

あけましておめでとうございます。ご紹介いただきました国土交通副大臣の青木一彦でございます。本日は自動車工業団体新春賀詞交歓会が盛大に開催されますことを、まずもって心よりお喜び申し上げます。令和2年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

名実ともに、日本の産業の屋台骨となっている自動車産業は、自動運転技術の進化、車の電動化、MaasやCASEといったモビリティのサービス化など、いくつもの変化の波を迎え、まさに大変革期にあります。航空、鉄道、道路、さらには都市政策といった分野を幅広く所管している国土交通省といたしましては、自動車交通の枠を超えて、これらの変化や課題に対応し、皆さんと手を携えて、適切に対応してまいります。高齢運転者の事故防止対策につきましても、乗用車等に対し、世界で最も早く、自動ブレーキの義務

付けを開始するための法令を近く公布いたします。また、急発進を防止する装置の認定制度を創設する他、これから車両、装置の導入支援補助を行うことといたしております。



岡野 教忠氏

日本自動車部品工業会 会長

《乾杯挨拶》

自動車業界が進む道標「自動車新時代戦略会議」

さらに皆さんの期待を背負い、安全、環境分野でも国際基準づくりを主導しており、特に自動運転においては国連の会議において議長として基準づくりのリーダーを務めてまいります。

引き続き、これら活動を通じて、世界の自動車先進国として、安全、環境性能に優れた自動車の普及・促進に努めてまいります。結びに、我が国の自動車産業にとつて、本年がよりすばらしい、飛躍の年になりますことと、さらにご列席の皆様方のご健勝、ご繁栄を心から祈念いたします。本年もよろしくお祈りします。

CASEといわれ、数年が過ぎました。正直、関連の分野と呼ばれました。しかし、徐々に具体的な進展がみられるようになってきました。サプライヤーですけれども、皆さん、ご承知と思います

道標が出来ました。

が、経済産業省主催で「自動車新時代戦略会議」というのがありまして、そこでCASEシナリオの日本の自動車戦略が取りまとめられました。また、昨年、2030年の燃費目標が、初めてWeit to Wheelで設定

また、昨年の東京モーターショーでOPEN FUTUREというところで、CASEの時代のモビリティ社会の未来像、これが示されたと思います。CASEの動きは、今年も着実に進化していくものと思います。

されしました。自動車業界が進む

今や自動車産業の国内出荷額は60兆円、日本の製造業全体が300兆円、GDPが600兆円ですので、2割、或いは1割を占めるわけです。自動車産業は、日本のみならず、グローバル

な戦略産業です。我々は社会における、このような役割を認識して、また、その役割を果たしつつ、その未来のモビリティ社会の実現に向けて、ここにご出席の皆様とともに、本年も邁進して参ります。ご出席の関係各位の皆様と、引き続き、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。それではFUTUREということ、ますますのご健勝と、ご活躍を祈念しております。



世界最大級の エレクトロニクス展示会 自動車メーカーは 将来のモビリティを提案

米国ネバダ州のラスベガスで1月7~10日の4日間、世界最大級のエレクトロニクス展示会「CES2020」が開催されました。元々は家電の見本市でしたが、近年は自動車関連の出展も増えてきました。自動運転やシェアリングなどC-ASE(コネクテッド・自動運転・シェアリング・電動化)を軸に、自動車メーカーやサプライヤーが将来のモビリティの在り方を提案したほか、近々投入を目指す新型車を披露するなど、市場の感触を探る機会にもなっています。

トヨタ、ホンダ、日産が ブース構える

CESは、1967年に家電見本市としてスタートしました。年々規模を拡大していて、今年度は4400社以上の企業が出展し、17万5千人以上が来場する世界屈指の展示会に成長しました。モビリティ以外にも大手IT系やヘルスケアなど出展する企業は多岐にわたります。

自動車メーカーにとっても、CESは会社の将来ビジョンや技術力を披露する絶好の機会になっています。今回は、日系メーカーからはトヨタ自動車、ホンダ、日産自動車の3社がブースを構えました。

トヨタ自動車

コネクテッドシティを発表 モビリティカンパニー像を披露

トヨタは、人、家、小型モビリティなどあらゆるモノが相互に繋がる実証都市「コネクテッドシティ」のプロジェクト概要を発表しました。

網の目のように道が織り込まれ合う街の姿から、この街を

「ウーブンシティ」と名付け、年内に閉鎖を予定するトヨタ自動車東日本の東富士工場跡地に建設を見込みます。まずはトヨタの社員など2千人程度が住民となり、将来的には175エーカー(約70.8万平方メートル)まで広げる計画です。

電動の自動運転車専用道路や、歩行者とパーソナルモビリティ用の道、歩行者専用の公園内歩道のような道と、モビリティによって3種類の道を使い分けられます。人々の暮らしの中で、人間、動物、車両、ロボットが行き交う幅広い種類の交差点を設けて、ここで自動運転車やパーソナルモビリティなどを実証する計画です。

街の最大の特徴は、人が住むリアルな街でさまざまな実証実験を行える点です。自動運転車「eパレット」の活用はもちろん、住宅内では、センサーベースの人工知能(AI)技術を使って冷蔵庫の自動補充を行ったり、スマートホームが住民の健康状態を自動でチェックするなど生活の中で多くの繋がる技術を用いてスマートシティを検証します。

2年前の18年のCESで豊



コネクテッドシティ建設を発表したトヨタ

田社長は「トヨタを自動車会社からモビリティカンパニーへ変える」と宣言しました。ライドシェア大手やIT系企業との提携、定額サブスクリプションサービス「KINOTO(キント)」の開始など、宣言通りこの2年間で自動車の生産や販売に留まらないサービスを打ち出しています。コネクテッドシティは、トヨタのモビリティカンパニーへの転換の

成果を披露する場になりそうです。

《本田技研工業》

完全自動運転を想定 主体はあくまでも人

本田は将来のオープンインベーションを見据えたコンセプトを発信しました。その一つが完全自動運転時を想定したコンセプトカーです。運転を自動で行うだけでなく、乗員のふとした思いつきに合わせて移動ができるような「自由運転」をキーワードにしています。

コンセプトカーは自動運転車両でありながらもハンドルが残っているのが特徴です。「ステア

リングホイールが自動車と人が介在するインターフェイスになるため「ホンダ担当者」です。ハンドルを握ることでアナログモードに切り替わり、人が運転することができるようになります。ハンドルを叩くことで加減速

を調整できるほか、人の視線移動を読み取るAI搭載カメラや背もたれに内蔵された赤外線センサーが体重のかけ方を分析し、ドライバーの運転の意思を読み取ります。これによって自動運転と手動運転の切り替えを自然かつスムーズに実現することが出来ます。「自動運転になっても主体はあくまでも人」というホンダらしさが垣間見える車両です。

本田はCESを、協業相手を探す場としても積極的に活用しており、このコンセプトカーでも「我々がありたい姿を先に提案することで賛同してくれる企業を探している」と言います。

《日産自動車》

新開発「e4ORCE」 技術の日産をアピール

市場投入を見据えるクロスオー

バー電気自動車（EV）「ニッサンアリアコンセプト」をベースの主に置いたのは日産です。東京モーターショー（TMS）2019でも展示したモデルですが、今回が北米では初公開になりました。「反応は上々」と開発担当者は

手応えを感じている様子でした。

新型車の存在自体をアピールしたTMS2019とは異なり、今回は技術に関する展示やプレゼンテーションを多く用意していたのが印象的でした。新開発の電動駆動4輪制御技術「e4ORCE（イーフォース）」を前面に押し出し、「減速時のフラットさを伝えたい」（日産開発者）と、技術の日産をアピールしたい考えでした。

また、先進運転支援技術「プロパイロット2.0」に着想を得た「プロパイロット ゴルフボール」や「e-NV200」をベースにしたアイスクリームの移動販売車などユニークな企画も多く、多くの来場者が集まっていました。



「自由運転」がテーマのホンダのコンセプトカー



残したハンドルが人中心の移動を象徴する



「ニッサンアリアコンセプト」



ホールインワン(日産のプロパイロット ゴルフボール)



国内乗用車系全メーカーが出展 カスタマイズカーや 次期市販モデルを展示



日本最大のカスタマイズカーの祭典「東京オートサロン2020」が1月10~12日の3日間、千葉市美浜区の幕張メッセで開催されました。今回は自動車メーカーやパーツメーカーなど前回より12社多い438社が出展しました。展示車両は前回よりも少ない800台だったものの、国内乗用車メーカー全社も出展し、カスタマイズカーや近く市場投入する予定のモデルも公開。過去最高の33万6060人が来場し、カスタマイズやモータースポーツカルチャーを楽しみました。

■クルマ好きイベントに様変わり

1983年に「東京エキサイティングカーショー」として始まり、1987年に現在の名称となった東京オートサロン。2000年代初頭まではマニツクにカスタマイズを楽しむ人達だけのイベントでしたが、近年は市販車の同乗走行やアーティストによる音楽ライブといった門戸を拡げる取り組みが奏功し、一般的なクルマ好きが数多く集まるイベントに様変わりました。

展示車を見ても、ド派手にカスタマイズしたクルマやレーシングカーライクにカスタマイズしたクルマもあれば、日常のカーライフを少し豊かにするカスタマイズもあり、その枠は広がっています。

■クルマの喜び、楽しさを

自動車メーカーにとってもオートサロンの重要度は高まっています。自動車業界は今、CASEやMaaSといった新たな潮流に直面しています。自動運転や電動化、所有から使用へのシフトが進めば、クルマ本来の魅力を感じにくくなるかもしれません。クルマをコモディティ化させないためにも、クルマを所有する喜び、カスタマイズの楽しさを訴求するオートサロンが果たす役割は大きいのです。

スズキ



ジムニーシエラマリンスタイル



スイフトスポーツ・カタナエディション

随所に、こだわりの仕上がり

スズキは、大型三輪車「KATANA(カタナ)」の力強さと美しさを内外装で表現した「スイフトスポーツ・カタナエディション」などの参考出品車を含む計10台のカスタマイズカーを出品しました。

カタナエディションの外観は「カタナ」の造形をヒントにワイド化して迫力を増したフエンダーにより、立体的なシルエットを強調。内装は熱を帯びたマフラーを彷彿させるグラデーションチタンをインパネなどに加飾しました。市販化の可能性は低そうですが、ボディにスイフトスポーツ純正のシルバーではなく、カタナ用のシルバーを使用するなどのこだわりの仕上がりに来場者からは市販化を求める声も聞かれました。

このほか、マリンスポーツにも使用できる「ジムニーシエラマリンスタイル」も出品。二輪車や船外機も手がけるスズキらしいカスタマイズが目立ちました。

SUBARU (スバル)



レヴォークプロトタイプSTIスポーツ



WRX S4 STIスポーツ(カスタムコンセプト)

走りの未来像を象徴

スバルはレヴォークプロトタイプSTIスポーツを出展しました。第4世代の新開発1.8リットル水平対向直噴ターボエンジンを搭載。新機能のドライブモードセレクトは、従来の「Sドライブ」のパワートレイン制御だけでなく、ステアリングやダンパー、AWDシステムの制御も可変できるそうです。プレスカンファレンスに登壇した開発責任者の五島賢商品企画本部プロジェクトゼネラルマネージャーは、「スバルの走りの未来を象徴したクルマ」と述べました。

今回のSTIスポーツは、車両の完成後にSTIが開発製作する従来のプロセスを見直し、新型車の設計初期からSTIのエンジニアがスバルの開発部隊に加わり、車両を作り上げているとのこと。ベースの新型レヴォークは2020年後半投入予定ですが、STI仕様車の導入時期は未定です。

ダイハツ

遊びゴコロをみんなのものに

「遊びゴコロをみんなのものに。」をブーステーマに出展したダイハツ工業では、自動車を中心に人が集まり、笑顔が生まれる車の使い方を提案しました。特に注目されていたのがハイゼットトラックをDJステーションやボルダリングに使用できるカスタマイズカー。DJバージョンはウーハーなどを搭載し、ドライバーが行き先でDJプレイが出来る仕様、ボルダリングバージョンは、雑誌「ピークス」とコラボレーションし、架装の部分に強化樹脂製のボルダリングの「ホールド」を設置しました。

市販車に近い車両では、2020年の発売を目指す軽クロスオーバー「タフト」のコンセプトカーを世界初公開。スクエアなデザインを特徴とするほか、「バンパーの両サイドに切れ込みを入れることでタイヤを正面から見えるようにした」(デザイン担当者)ことにより、アウトドアでの使用も想定した力強さを演出していました。ダイハツの新たな開発手法「DNGA」を採用し、車両の基本性能も高まっており、2020年注目の新型車の1台になりそうです。



DJプレイを披露する
かかかかかかか



タフトのコンセプトモデル

トヨタ自動車

ラリー王国を不動のものに

トヨタ自動車は、世界ラリー選手権(WRC)のホモロゲーション(型式認定)モデル「GRヤリス」を世界初公開しました。かつてWRCに参戦した「セリカGTFOUR」以来20年ぶりの4WDスポーツカーの復活になります。プレスカンファレンスに登壇した友山茂樹ガズレーシングカンパニープレジデントは「フリー王国トヨタを不動のものにするウエポ」と評しました。

GRヤリスのバリエーションの一つとして搭載する1.6リッター直列3気筒直噴ターボエンジンは、軽量な運動部品採用によるエンジンの高回転化、ターボチャージャーなど吸排気系を最適化し、3気筒エンジンでは世界最高レベルの272馬力を確保。高剛性ボディに新型スポーツ4WDシステム「GR FOUR」を組み合わせ、高次元の動的性能を実現しました。豊田社長は「86、スープラは完全内製化できなかったが、3兄弟の末っ子的なヤリスで内製化できた」と語りました。



プレスカンファレンスにはモリゾウこと豊田社長もサプライズ登場



GRヤリス

日産自動車

レーシングカーさながらの仕上げ



スカイライン400R
スプリントコンセプト



GT-Rの50周年記念モデル

日産自動車は昨年9月に発売した新型「スカイライン」の特徴を引き立たせる2種類のコンセプトカーをはじめ、「GT-R」と「フェアレディZ」の50周年記念モデルなどを展示しました。

405馬力のV型6気筒ツインターボエンジンを搭載した「スカイライン400R」のコンセプトカー「スカイライン400Rスプリントコンセプト」は、走行性能の高さを際立たせたモデル。特徴的な配色をあしらったデザインを採用することも、NISMOの知見を活用し、空力性能を高める前後バンパーやリアスポイラーを装着。レーシングカーさながらの仕上がりになっています。

同モデルがスポーツカーの特徴を強調したのに対し、スカイラインの高級感をより強く引き立てたのが「スカイラインデラックスアドバンスドコンセプト」です。外観はブラウンとシルバーの上品な2トーンカラーとし、内装のシートには、ベージュとブラウンの2トーンを採用。上質感を演出していました。

本田技研工業

ホンダのスポーツイメージをけん引



新色「インディエロー」のNSX



シビックタイプR

ホンダは「シビック」の高性能モデル「タイプR」の改良型を発表しました。「FF（前輪駆動）車最速」を目指し、グリルの開口率を上げてエンジン冷却性能を高めるなどサーキット走行時の性能を進化させたそうです。寺谷公良執行役員は「ホンダのスポーツイメージをけん引するフラッグシップモデルだ」と述べ、出来栄に自信を示しました。

このほか、マイナーチェンジした「S660」「シビックセダン／ハッチバック」や「NSX」の新色も公開しました。

また、新型「NONE」ベースの「カフェレーサーコンセプト」も披露しました。市販時にはデザインが変わる可能性もありますが、発売時期は2020年秋を予定しているとのこと。

ベースとなる新型車はプラットフォームの刷新やホンダセンシングの採用により、走行性能や安全性能が大幅に向上される見通しです。

マツダ

2つの軸でカスタマイズ提案

マツダのブースでは、「CX-30」や「CX-5」といった「クロスオーバーSUV」と「ロードスター」などの「モータースポーツ」という2つの軸でカスタマイズを提案しました。

クロスオーバーSUVでは、マツダのアクセサリパッケージ「シグネチャースタイル」をベースにオートサロン専用のカスタマイズを施した「CX-30」を展示。シグネチャースタイルは、クローム加飾のアンダーガーニッシュや切削アルミホイールなどで構成しますが、ルーフレールや自転車用のアタッチメント、ラゲッジトレイなどを追加装備し、アウトドアでの使い勝手を高めました。

モータースポーツでは、チューニングパーツを組み込んだ「ロードスター」「マツダ3」「CX-5」を展示。ロードスターとマツダ3には、車高調整式サスペンションや専用マフラー、牽引フックなどを装備。アウトドア、モータースポーツともに、ベース車の良さを損なうことなく、車の使える幅を広げるカスタマイズがマツダブースの特徴となりました。



MTBを積んだCX-30



チューニングパーツを組み込んだロードスター

三菱自動車

個性豊かな7台を展示

三菱自動車は新型「eKスペース」と「eKクロススペース」を出品。いずれも2019年度内の発売を予定しており、市販時とほぼ変わらない仕様で披露されました。拡大するスーパーハイット系市場で2020年注目の1台になりそうです。

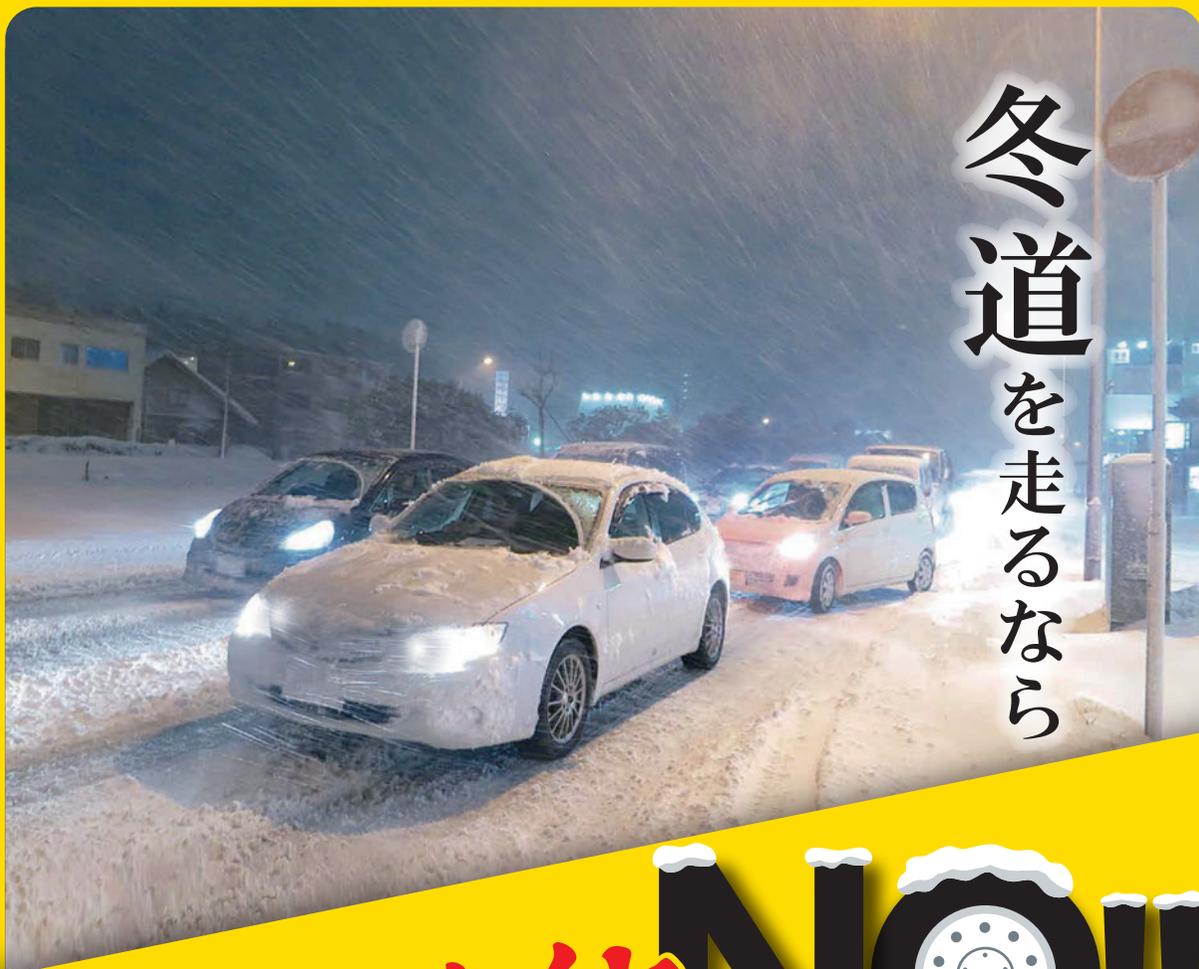
また、参考出品としては、昨年発売した「eKクロス」をベースにしたカスタムカーの「ワイルド・ビースト・コンセプト」を展示しました。車両のイメージカラーである黄色をより強調するとともに、エアロパーツなどを装着してワイルドなデザインを演出しています。このほか、「デリカD・5」や「アウトランダーPHEV」「エクリプスクロス」のカスタマイズカーも出展。個性豊かな計7台の車両でブースを彩りました。車両に加え、演出家・コメンテーターのテリー伊藤氏によるトークショーも注目が集まりました。



eKクロススペース



eKクロスワイルド・ビースト・コンセプト



冬道
を走るなら

ノーマルタイヤ **NO!!**

冬場になると、道路の積雪や凍結により、ノーマルタイヤを装着した車両が立ち往生して、深刻な交通渋滞や通行止めを引き起こしています。

積雪・凍結道路で
すべり止めの措置をとらない運転は

法令違反 となります。

都道府県道路交通法施行細則または道路交通規則にて積雪または凍結した路面での冬用タイヤの装着等いわゆる防滑措置の義務が規定されています。(沖縄県を除く)
違反行為は、反則金の適用となります。(大型：7千円、普通：6千円、自動二輪：6千円、原付車：5千円)

※タイヤチェーン未装着車の通行を禁止する規制時は、冬用タイヤであっても、タイヤチェーンの装着が必要です。

自動車メーカートップと学生が交流 クルマ、バイクの魅力や ものづくりの 重要性を伝える

自工会が主催する「大学キャンパス出張授業2019」が、2019年9月から20年1月にかけて、全国13の大学で開催されました。乗用車をはじめ二輪車、大型車を製造する自工会会員メーカー14社のトップを講師とし、学生を対象に大学内で講演するものです。学生たちに直接語りかけ、交流しながら、クルマやバイクの魅力、日本のものづくりの重要性を伝えることが目的です。今年で7回目の開催となりますが普段はなかなか接する機会がない自動車メーカーのトップと交流できることもあり、会場には多くの学生が集まり熱心に耳を傾けました。

■クルマ・バイクの魅力を伝える

自工会では、若者のクルマやバイクに対する興味関心を高めるとともに、自動車産業・ものづくりへの理解促進のための取り組みを展開しています。大学キャンパス出張授業はこの一環として、2013年から取り組んでいます。今回を含め、45キャンパスで開催し約3万人の学生が参加しました。近年は若者のクルマ離れも指摘されていま

すが、自工会では同活動を通じて、継続的に自動車産業の魅力を訴えていく取り組みが重要と考えています。

■トップ自らが語る

講演の特徴の一つが、トップ自らの学生時代のエピソードや、自動車産業での経験を通じて得られた経験を語るといことです。ホンダの神子柴寿昭会長



副社長は開催場所の筑波（JAXA本拠点）にちなんで、って登壇し会場を盛り上げました



ホンダ
神子柴会長は米国駐在時や営業部門での経験・エピソードを紹介



マツダ
「ロータリーエンジンを復活して欲しい」という声が相次ぎました

は、学生時代に卒論で「シビック」を取り上げたことなど、ホンダとの出会いや23年に亘る海外駐在や営業経験から学んだホンダのものの考え方や仕事の進め方などを紹介し、「自分で限界を作ることなく、自らの可能性は無限だと信じて、チャレンジを」と熱いメッセージを送りました。

マツダの丸本明社長は、自身の経験も踏まえながら「成功体験や大きな挫折を通じて(人の)バックボーンは形成されていく。これは仕事が変わったとしても役に立つので、バックボーンを磨くことを大切にしたい」と話しました。

■学生からの質問・意見

世界でビジネスを展開する日本の自動車メーカーのトップに、学生が質問をできることも魅力の一つです。日産自動車の星野朝子副社長の講演会では、約半分の時間を質疑に充てましたが、次々と手が挙がりました。「日産のカーシェアサービスの『eシェアモビ』は、競合と比べてステーション数が少ないが、利用者数の増加や稼働率向上のためにどんな取り組みをしているか」といった相次ぐ具体的な

質問に、星野副社長も驚いた様子でした。

トヨタ自動車の寺師茂樹副社長は、開発中の自動運転車「eパレット」の活用方法について学生たちと対話しました。「トイレを内蔵したeパレットがあると、トイレが見つかからない時に助かる」という学生ならではのユニークな提案に対して、「災害時にはトイレの確保は重要な問題になる。貴重な意見だ」と感心していました。

■試乗体験会も実施

大学出張キャンパスの講演の前には、実際に自動車の魅力や最新技術を体感してもらう場も設けています。スバルは予防安全システム「アイサイト」の同乗体験会を構内で実施したところ、多くの学生たちが列をつくって待ちました。講演終了後にスズキの鈴木俊宏社長は展示したバイクの前で、学生たちの質問をラランクに答えていました。

この他にも全国の大学と連携し大学キャンパス出張授業を実施。自工会会員のトップが学生たちと交流しながら、クルマ・バイクの魅力に触れてもらいました。



スズキ
鈴木社長は、講演終了後も学生たちとの交流を続けていました



トヨタ
筑波大学で講演を行った寺師
宇宙服姿で歩行領域EVに乗



スバル
「二輪車にアイサイトを付けてはどうか」といった学生たちからの新しい提案もありました



日産
星野副社長は、自動車産業のトレンドとその中での日産の取り組みを紹介しました



CAR Manufacturer 自動車博物館 関連施設 紹介シリーズ

SUBARU/スバルビジターセンター

SUBARUの矢島工場(群馬県太田市)にある「スバルビジターセンター」は、創立50周年記念事業で、2003年7月15日に開設。工場見学を通じ、スバルブランドをご理解いただく場として、歴代のスバル車を展示するとともに、水平対向エンジンやシンメトリカルAWDをはじめとするスバルのコア技術や、環境・安全への取り組みをわかりやすく解説したギャラリーも設けています。



スバルビジターセンターのご案内



群馬県太田市の矢島工場正門より入ってすぐ。右手にはジェット練習機初鷹もお出迎えています。



SUBARUの技術が創造する、人と車との感動の出会い。その世界観を象徴的に表現した吹き抜けのフロアです。



世界ラリー選手権の競技車両や歴代のSUBARU車を展示するコーナーです。



工場見学にお越しいただいた皆様へ映像によるご説明ができる設備を完備し、約200名が一度に着席することができるホールです。



「SUBARUの総合安全」を支える技術について学べるギャラリーです。



SUBARUの前身である中島飛行機のDNAを受け継ぎ、宇都宮製作所で製造された戦後初の国産ジェット練習機T-1「初鷹」を展示しています。



QRコードよりスバルビジターセンターのウェブサイトをご覧になれます。
<https://www.subaru.co.jp/csr/factory-tour/503.html>



予約の案内▶ お電話での仮予約後にFAXでの本登録が必要です



お電話でのご予約 **0276-48-3101**

- 見学予定日の2か月前の月初の営業日午前8時30分に受付を開始します。
- 電話予約後見学日20日前までに申し込み書をダウンロードし、記入した上でFAXにてお送り下さい。
- FAXを確認後、予約の完了をご連絡いたします。



詳しくはこちら

インフォメーション

所在地 スバルビジターセンター

〒373-0822 群馬県太田市庄屋町1-1

TEL:0276-48-3101 FAX:0276-48-3102

- 入場料 無料
- 開館日 開館日カレンダーに準ずる
- 見学時間 9:00~10:45 / 11:00~12:45 / 13:00~14:45

電車でお越しの場合

- 東武伊勢崎線太田駅より
お車で約20分。またはバス(朝日バス)にて太田駅南口より「熊谷駅北口行き」乗車、「マリエール太田前」下車、徒歩約10分
- JR熊谷駅より
お車で約40分

お車でお越しの場合

- 関越道東松山ICより
R407経由で約60分
- 東北道館林ICより
R354経由で約40分
- 北関東自動車道 太田桐生ICより
R122、R407経由で約30分

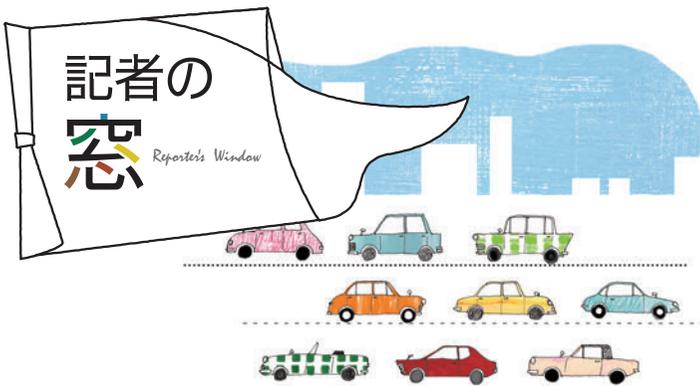
※お電話にてのお問い合わせは、平日(月~金、開館日カレンダーに準ずる)8:30~17:00



詳細な地図をご覧になれます。

【資料・画像等提供=SUBARU】





北海道新聞社
よねだ まりこ
米田 真梨子

車が怖かった

◎日本自動車工業会(自工会)の広報誌でこんなことを書くのもどうかと思うが、私は車が怖い。正確に言うと、車を運転するのが怖い。免許はあり、弊社の本拠地である北海道では毎日のように運転していた。それでもいつもおっかなかった。

◎その思いを抱くようになったのは、入社1年目だ。札幌で警察を担当し、事件や事故の現場に足を運んだ。特に交通事故は1日に何力所が行くこともあった。北海道は交通事故の死者数が多い地域で、担当だった2012年は都道府県別死者数がワースト2位。2019年は同3位だった。

◎高齢者が運転する車がコンビニに突っ込んだ現場や、乗用車とクマの衝突事故も記憶に残る。でも今も鮮明なのは、人が亡くなった事故だ。過失があった運転手が「前をよく見ていなかった」と震えながら話してくれたこともあった。つづれた車に恐怖を感じた。

◎その後異動した網走や帯広で、初めて日常的に運転するように

なった。流水が浮かぶオホーツク海や、牛が草をはむ牧場を眺めてのドライブは最高だ。だが、私は運転に全く向いていなかった。取材先の自動車販売店の看板にぶつけ、病院の車止めをこすり…。多方面に迷惑をかけた。取材した事故現場が脳裏に浮かび、「いつか人を傷つけてしまったら」とおびえた。

◎だからといって運転しないわけにいかない。仕事にも、スーパーにも行けない。細心の注意を払って運転席に座った。網走で通ったスナックの70代のママも運転が苦手で、可能な限りしないと、「不便だ」とこぼした。帯広で親しかった80代のタクシー運転手の男性は「ぼけたら免許返さなきゃ」と笑いながらハンドルを握った。広大で公共交通の空白地が多い北海道は、車がないと生活が成り立たない。報道される高齢者の免許返納は、地方の現状とかけ離れていた。

◎さて、昨夏に自工会の担当になった。東京に転動してから運転する機会が減り、ほっとしていたところ

だった。車への苦手意識は強いままで、とつきにくさを感じていた。

◎ところが、最先端の機能を搭載した車を取材してみると、印象が変わった。蓄電池代わりにもなる電気自動車は、北海道胆振東部地震による全域停電を経験した道民には頼もしい。安全運転を支援する機能も増えつつある。何より、自動運転だ。近い将来、過疎の町に自動運転のバスが走り、人手不足に悩む一次産業の現場で無人トラックが作業するのが普通になる。高齢で運転に不安のある人が気軽に車で出かけられる日が来るかもしれない。

◎自動車業界の人たちは、「交通事故を無くすことは大きな目標だ」と口をそろえる。もちろん、車の機能が向上すれば万全ではなく、人間の使い方が重要だと分かっている。それでも、東京モーターショーの会場を歩きながら、最新鋭の車が北海道の小さな町で活躍する姿を思い浮かべた。誇らしげに陳列されるピカピカの車たちは、以前よりずっと親しげに見えた。



あっ!

まさか!

とっさに!

つい!

うっかり!

気をつけて! ブレーキと アクセルの踏み間違い

急ぐときほど落ち着いて。余裕をもった運転を心がけましょう

詳しくはWebで



エンジンを掛ける前に、
落ち着いて、ペダルの位
置を確認しましょう。



バック時、料金所での支
払時、体をひねると足が
ズレやすいので要注意。



厚底・サンダル・ヒール
など、運転に適さない
靴・履物は避けましょう。



フロアマットはクルマに
合ったものを使い、重ね
敷きはやめましょう。



あなたの安全運転を支援する「安全運転サポート車(サポカー)」。
その機能を正しく理解し、過信せず、安全運転を心がけましょう。